


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	錦織 達人 
所属機関	京都大学医学部附属病院医療安全管理部・消化管外科
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	International Gastric Cancer Congress 2019
渡航期間	自 2019年5月8日 至 2019年5月12日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	Gastric cancer nomogram for predicting postoperative survival in patients aged 80 or older (80歳以上の高齢者胃癌患者を対象とした予後予測ノモグラムの開発)
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>チェコ・プラハで開催された国際胃癌学会で、上記演題について発表した。以下に概要を示す。</p> <p>【背景】 本邦における2018年の80歳以上の人口は、1104万人と欧州の1国規模にまで増加し、胃癌手術患者においても、20%前後が80歳以上の患者が占めていることが、全国規模の調査で明らかになっている。しかし、80歳以上の高齢患者は併存症を多く有し、化学療法の実施が困難である。長期予後を予測できれば、適切な治療を選択することが可能となる。</p> <p>【目的】 80歳以上の胃癌患者の長期予後を予測できるノモグラムを作成する。</p> <p>【方法】 Stage I-III 胃癌に対し手術を実施した80歳以上の患者660人を対象とした。全生存をアウトカムとしたCox回帰分析にて予後予測因子を同定し、ノモグラムを作成した。ブートストラップ法を用いて妥当性の検証を行った。</p> <p>【結果】 1年、3年生存率は、82%、63%であった。術後3年以内に225人の患者が死亡し、うち94人(42%)は他病死であった。Cox回帰分析の結果、腫瘍学的因子の他に併存症、低栄養といった9つの予後予測因子を同定し、ノモグラムを作成した。C-indexは0.71で、TNM分類の0.65と比較して良好であった。Calibration plotでは、TNM分類が予後を楽観的に予測するのに対し、本ノモグラムでは予測死亡率と実測死亡率は良好な相関を示した。</p> <p>【結論】 80歳以上の胃癌患者を対象に長期予後を予測するノモグラムを作成した。</p> <p>本発表を通じ、高齢化が進む日本における胃癌治療の問題点と予後を個別化して治療方法を検討するという1つの解決策を海外の研究者と共有することができた。また、日本だけでなく、KLASS2など各国の最先端のスタディの結果を聞くことできた。この貴重な経験を、今後の自身のがん研究の進展に繋げていきたいと考えている。</p>	